

第14回田原市男女共同参画推進懇話会 次第

日 時：平成23年10月20日（木）

午後1時30分から

場 所：田原市役所 講堂（南庁舎6階）

1 あいさつ

○ 会長あいさつ

○ オブザーバーあいさつ

2 協議事項

(1) 各委員の取組状況【資料1】

(2) 市の取組状況【資料2】

(3) 男女共同参画フェスティバルについて
テーマ：「男女を隔てる意識の解消」

ア 第4回開催状況報告【資料3-1、3-2、3-3】

イ 来年度の開催について

3 市民意識調査の結果報告と今後の取り組みに向けての意見交換 男女共同参画推進に関する市民アンケート調査結果【資料4】

4 その他

- ・まちづくり市民会議委員について
- ・次回懇話会開催：平成24年3月中旬頃（予定）

<資料>

第14回田原市男女共同参画推進懇話会委員出席者名簿・配席表

【資料1】各委員による取組状況

【資料2】市の取組事業概要

【資料3-1】第4回男女共同参画フェスティバル開催状況報告

【資料3-2】第4回男女共同参画フェスティバル実施結果（懇話会委員からの意見）

【資料3-3】第4回男女共同参画フェスティバル出展者アンケート結果報告

【資料4】男女共同参画推進に関する市民アンケート調査結果

【参考資料】生涯発達初期の選択行動（8）—大卒未婚者の結婚生活観と専業主婦志向—

【参考資料】平成23年度版あいちの男女共同参画（平成22年度年次報告書）

第14回田原市男女共同参画推進懇話会委員名簿

(任期：平成23年6月17日～平成25年3月31日)

通番	役職	氏名	区分		出欠
1	会長	中村 都祁子	市の関係組織	行政相談委員	
2	副会長	河邊 寿夫	地域団体	田原市地域コミュニティ連合会副会長兼会計 (野田校区会長)	欠
3	委員	岩田 大介	地域団体	社団法人田原青年会議所副委員長	欠
4	委員	松野 美香	地域団体	たはら国際交流協会事務局	欠
5	委員	鈴木 政義	医療団体	愛知県厚生農業協同組合連合会渥美病院事務次長	欠
6	委員	菊池 邦子	福祉団体	社会福祉法人田原市社会福祉協議会主任	
7	委員	森下 静子	市民団体	女性会議 WIT ウィット代表	欠
8	委員	吉武 正康	産業関係	愛知外海漁業協同組合代表理事組合長	
9	委員	鈴木 信	産業関係	田原市認定農業者連絡会会長	
10	委員	大久保 哲夫	産業関係	愛知みなみ農業協同組合人事課長	
11	委員	小久保 恭子	産業関係	渥美商工会女性部長	
12	委員	杉山 礼子	産業関係	田原市商工会女性部副部長	欠
13	委員	加藤 昌高	産業関係	渥美半島観光ビューロー 事業推進本部員	新
14	委員	柴田 登	市議会	田原市議会議員	
15	委員	大羽 チズエ	各種委員会	田原市防災会議委員	欠
16	委員	鈴木 貴江	各種委員会	田原市農業委員会委員	新
17	委員	渡辺 峰男	各種委員会	田原市教育委員会委員	
18	委員	川口 昌宏	市の職員	田原市市民環境部長	
19	委員	永田 みよ江	その他市民	公募者	
20	委員	平野 利依	その他市民	公募者	

役職	氏名	区分		備考
オブザーバー	武田 圭太	学識経験者	愛知大学教授	

事務局

田原市市民環境部 市民協働課	(課長) 渡邊 澄子
	(副主幹) 鈴木 嘉弘
	(主任) 広中 有香
	(主事補) 柴田 奈津子

第14回田原市男女共同参画推進懇話会席次表

(敬称略)

行政相談委員
会長 中村 都祁子

愛知大学教授 オブザーバー 武田 圭太		田原市社会福祉協議会 委員 菊池 邦子	
田原市議会議員 委員 柴田 登		愛知外海漁業協同組合 代表理事組合長 委員 吉武 正康	
田原市農業委員会委員 委員 鈴木 貴江		田原市認定農業者連絡会会長 委員 鈴木 信	
田原市教育委員会委員 委員 渡辺 峰男		愛知みなみ農業協同組合 人事課長 委員 大久保 哲夫	
田原市市民環境部長 委員 川口 昌宏		渥美商工会女性部長 委員 小久保 恭子	
公募委員 委員 永田 みよ江		渥美半島観光ビューロー 事業推進本部員 委員 加藤 昌高	
公募委員 委員 平野 利依			
事務局			

広中主任

渡邊課長

鈴木副主幹

柴田主事補

入口

各委員による取組状況

委員名	ページ数
河邊 寿夫 委員	1
菊池 邦子 委員	2
森下 静子 委員	3
小久保恭子 委員	5
大羽チズエ 委員	6
鈴木 貴江 委員	7
永田みよ江 委員	8

委員連絡票 1

男女共同参画推進への取り組みやご意見などをご記入ください。次回会議で話したいことなど、なんでも結構です。ご自由にお書き下さい。

名 前	田原市地域コミュニティ連合会 河邊 寿夫 委員	連絡票No.	1
-----	----------------------------	--------	---

6月に地域側として取り組む課題の解決について、効果的に進めるための具体策を検討する組織として、「地域コミュニティ活性化研究会」が地域コミュニティ連合会の専門委員会として設置されました。

この研究会は、2カ年度で「住民参加の促進」「地域活動の活性化」「地域コミュニティと神社との関係」について、課題の把握や解決手法の調査・提案等に取り組んでいきます。

その中で、来年7月の会議では「女性参加の拡大」について、女性参加の現状を把握し、具体的な対応策を調査検討していくこととしています。

委員連絡票 2

男女共同参画推進への取り組みやご意見などをご記入ください。次回会議で話したいことなど、なんでも結構です。ご自由にお書き下さい。

名 前	田原市社会福祉協議会 菊池 邦子 委員	連絡票No.	2
<p>取り組みといえるほどのことはできていませんが、社協が行うボランティアセンター、地域福祉活動計画、各種団体との連携の中で、男女共同参画のコンセプトを入れていけたら、と思っています。</p>			

委員連絡票 3

男女共同参画推進への取り組みやご意見などをご記入ください。次回会議で話したいことなど、なんでも結構です。ご自由にお書き下さい。

名前	女性会議ウィットWIT 森下 静子 委員	連絡票No.	3
<p>女性会議ウィットの活動から</p> <p>①原作「ももたろう」をもとにして、ジェンダーバイアスを気付かせてくれる奥山和弘さんの作品「モモタローノーリターン」を、紙芝居としての表現に作り変えて男女共同参画フェスティバルで発表しました。その時には、懇話会委員の柴田さん、杉山さん、渡辺さんにも出演いただき、さらに立場を越えて協働していただきました。</p> <p>②フェスティバルで上映した“「フラワーズ」をリテラシーしてみよう”という会を開催（9月26日）</p> <p>③東海“人間と性” 教育研究協議会 参加（10月1日 吹上ホール） タイトル：男子に性の光を！～男が変われば「関係」は変わる～ （男の子、男性の性教育の貧困が招くクライシス） 講師：村瀬幸浩さん 分科会：第一分科会「岐阜の19年間の電話相談、メール相談から見えてくる男性の性」 第二分科会「わたしとあなたのきより」 第三分科会「高校生の月経感・射精感」 （田原市男女共同参画推進懇話会で、ぜひ村瀬さんを講師に呼んで講演会を行っていただきたいと思います。）</p> <p>④伊藤般展さんの講話会“My History と民主主義” 開催（10月13日）</p> <p>⑤出前講座「田原市の子育て支援施策を問う」（10月24日） 児童虐待や一人親はどうやって子育て支援を受けられるの…というところから「子育て支援」について、となった。 ウィットとしてやるので、「男女共同参画の視点のもと実施されている育児支援・親支援」について訊いてみたい。 子育てのノウハウや緊急避難的な育児支援施策の部分については、実数の利用者数、担当者の事業評価≪利用者の声、支援に関わる方（ボランティア・職員共に）の能力に関すること、資格や講習（必要性の認識）制度への見解≫</p>			

具体的な子育て支援でなくても、男女が平等でないために起こりうる様々な事例について支援があるのか？

【例】

・「マタニティブルー」

良い母親であらねばならない、女だから子育てができて当然等のプレッシャーにどう対処するのか、仕事を失う、自由を奪われる、一人の人間から、誰かさんのお母さんになってしまうストレス等…お母さんの気持ちをキャッチする…レスパイト等はあるのか…これは小さい子をもつお母さんだけではない、育児支援の対象としてイメージしている子どもの年齢は？

・無知による多産への対処…母体の健康のため、一年間は間をあけること等、避妊・経済的な計画など、夫婦で出産前・出産後でも、受けている割合は？

・電話相談について

「子どもをかわいく思えない、どうしたらいい？」にはどう応える？
そういう相談を受けたら、市民はどこにコンタクトを取ればいいのか？

・メディアや世間に求められる母のあるべき姿からの縛り、例えば、映画などは、美しさと愛情という口当たりの良い言葉で、涙と心洗われる気持ちを感じさせながら、さらに映画の細やかさと共に「女性としてあるべき姿」と「女と役割・立場」を刷り込んでいく。メディアや家庭、学校、地域からの教育によって培われた価値観と、自分が背負う現実の矛盾から自己否定と外に言えない孤立が作られていくことをどのように考えているか。

・子育て前の段階、妊娠したら受ける支援について、内容から知りたい。特に男性に人権と科学の視点を基本とした性教育をしていくことが、子育て支援の大きなネックとなるのではないか。
男女が共に互いを尊重するSEX、妊娠、出産、育児を行う価値観と能力を身につけ、お互いが幸せになれる学びが子育て支援の最重要分野。長い時間年月がかかることであるだけに、すぐにスタートして行っていくことが必要と考えられるが。

委員連絡票 4

男女共同参画推進への取り組みやご意見などをご記入ください。次回会議で話したいことなど、なんでも結構です。ご自由にお書き下さい。

名 前	渥美商工会女性部 小久保 恭子 委員	連絡票No.	4
<p>男女共同参画フェスティバルは、去年は日程の都合で参加することができませんでした。今年は微力ながらお手伝いができ、良かったなと思っています。運営部会の委員の方がそれぞれのポジションで皆と協力しながら行事を進めていかれる光景は、これぞ男女共同参画のモデルだと思いました。</p> <p>渥美商工会では、年2回、渥美半島クリーン作戦と題して、草刈りやごみ拾いの清掃活動を行っています。会議のみならず、こちらの方もやはり女性の参加が少なめですので、今年は自分から声掛けをして、多くの商工会女性部の人に汗を流してもらって、共に働く喜びと、地域社会の環境美化に少しでも貢献できたというホットな気持ちになってもらいたいと思っています。ちなみに、開催日は10月29日（土）です。</p>			

委員連絡票 5

男女共同参画推進への取り組みやご意見などをご記入ください。次回会議で話したいことなど、なんでも結構です。ご自由にお書き下さい。

名 前	田原市防災会議委員 大羽 チズエ	連絡票No.	5
<p>まわりの女性に男女共同参画について話をしてみました。「そういうことを言う人は自分の主張ばかりを言っていて、私たちの気持ちや考えは受け入れない…」と言い、偏見すら持っているのでは、と思うことがありました。女性自身の意識の低さも感じます。</p> <p>フェスティバルのテーマ「男女を隔てる意識の解消」はなかなかハードルが高いかと思いますが、粘り強く継続していくことが重要と思いました。</p> <p>役職も能力のある女性をどんどん遣うべきと思いますし、またそういった女性が能力を発揮できるような環境づくり（保育、勤務時間等）が大切、という声もありました。</p>			

委員連絡票 6

男女共同参画推進への取り組みやご意見などをご記入ください。次回会議で話したいことなど、なんでも結構です。ご自由にお書き下さい。

名 前	田原市農業委員会 鈴木 貴江 委員	連絡票No.	6
<p>田原市農業委員会の中の女性委員は、前期・今期共に3人です。愛知県では、平成17年は60人、20年は73人、本年度は87人と確実に増加しています。全国で見ても、平成20年度は1,744人、本年度は2,063人と増加していますが、全農業委員に占める女性の割合は5.7%です。</p> <p>私は農業委員になりまだ2か月ですが、女性だから不利、とか、無理、とかは感じません。</p> <p>男女共同参画推進により女性の公的仕事の参加をうたっても、実数が伸びないのは、女性の側に問題があるからです。誰もが女性の参加を希望しながら、いざ役が自分に回ってくると逃げたくなるのです。自身の経済活動も大切だし、家族の理解も得なければならぬし。第一に面倒くさいし。</p> <p>男女共同参画の意味をもっとわかりやすくし、社会参加を楽しめる環境づくりが必要だと思います。</p>			

委員連絡票 7

男女共同参画推進への取り組みやご意見などをご記入ください。次回会議で話したいことなど、なんでも結構です。ご自由にお書き下さい。

名 前	永田 みよ江 委員	連絡票No.	7
<p>第4回男女共同参画フェスティバルを終えて</p> <ul style="list-style-type: none">◆アンケート結果◆委員の感想、身近な参加者の感想◆映画の感想◆次回への課題			

平成23年度 市の取組事業概要

1 男女共同参画推進事業の取り組み状況

①第4回男女共同参画フェスティバル開催支援【資料3-1、3-2】

※詳細は第4回開催状況報告にて報告

②男女共同参画推進に関する市民アンケート調査結果【資料4】

※詳細は市民意識調査の結果報告にて報告

③男女共同参画推進懇話会の運営事務

- 第13回（6月17日）開催 会長・副会長の選任、市の事業実績（H22年度）、重点推進テーマ・実践事業の検討
- 第14回（10月20日）開催 各委員の取組状況、市の事業実施状況、フェスティバルの検討、市民意識調査の結果
- 第15回（3月中旬）予定 各委員の取組状況、H24年度に向けての調整事項

④男女共同参画推進ワーキング会議の運営事務

- 平成23年度第1回（5月27日）開催 市の事業実績（H22年度）、市民協働課事業・各課の事業計画
- 平成23年度第2回（10月5日）開催 懇話会協議状況、各課の取組状況
- 平成23年度第3回（3月上旬）予定 各課の取組状況、H24年度に向けての調整事項

⑤男女共同参画ニュース

- Walk Together vol.9 H23年8月1日号広報たはらに掲載
- Walk Together vol.10 H24年2月1日号広報たはらに掲載予定

⑥男女共同参画に関する啓発パンフレット

作成予定

⑦男女共同参画に関する職員研修会

平成24年1月頃実施予定

⑧愛知県男女共同参画人材育成セミナー派遣支援

交通費支援（受講生：永井和子さん）

2 各課における関連事業の取り組み状況

(平成23年度第2回ワーキング会議での担当者からの報告)

①広報秘書課

《国際交流への男女共同参画の促進》

- ・国際交流協会の参加者は女性の方が多い。
- ・在住外国人の自立生活のために、6言語に対応した生活ガイドブックを作成。各種手続き、補助金、学校や保育園の紹介をするものである。男女関係なく、多文化共生に向けて取り組んでいる。

《男女の人権に対する啓発活動》

- ・広報たはらに、男女共同参画ニュース「Walk Together」を年2回掲載。

②人事課

《人事管理事務》

- ・市女性職員の登用促進を行っており、管理監督者における女性職員の登用率は着実に上がってきている。【実績 H22年度 24.6% H23年度 26.3%】

《職員研修事務》

- ・女性リーダー研修を実施しているが、公募者が少ないので参加促進をしていきたい。

③環境衛生課

《環境分野への参画の促進》

- ・環境分野の各種協議会の委員には、各自治会の自治会長さんや各地区の代表の方をお願いしているため、男性が多い。女性選任について、考えていく必要がある。

④エコエネ推進室

《環境分野への参画の促進》

- ・NPO団体の女性会員比率は、目標値を上回っている。
- ・菜の花エコ推進協議会の女性比率は目標値を下回っており、伸びもない。各種団体の長に委員をお願いしているため、男性の方が多くなっている。

⑤福祉課

《民生・児童委員活動支援事業、保護司活動支援事業、人権啓発活動事業》

- ・各種委員への女性登用を促進している。委員は各校区から推薦していただいているが、男性の推薦が多い。
- ・保護司の女性比率の目標値は、30%であるが、平成22年度の実績は7.4%と低い。女性登用を促進してはいるが、業務内容には刑期を終える方の面接等もあり、校区としても女性登用に慎重にならざるを得ない状況が原因。

《高齢者と障害者の生活の安定と自立支援》

- ・高齢者に対しての福祉サービスを提供する各種事業において、介護用品券の交付等のサービスを受ける要介護認定者の方の人数は、年々増加している。

- ・高齢者が要介護にならないための予防事業は、周り回って男女共同参画推進につながるのでは。
- ・介護する家族の不安解消のための介護者支援事業では、おむつの取り換え方教室等を行っている。
- ・目標数値を達成していればよいというわけではない項目については、見直し作業が必要。

⑥子育て支援課

《生涯安心の暮らしづくり》

- ・今年度の地域子育て支援センターの利用者には、男性や両親ともに来られる方が増加。夏季における企業の木曜・金曜休業の影響と思われる。
- ・男性のみを対象とした講座は開いていないが、各種講座や保育園の行事等に男性の参加も促すよう呼びかけている。

⑦健康課

《生涯にわたる心身の健康づくりへの支援》

- ・20代、30代の乳がん検診・子宮がん検診受診率は伸び悩んでいる。乳幼児健診の際や、保育園において受診促進をしている。
- ・乳がん検診と子宮がん検診を一回にまとめたり、土日も検診を開催したりすることを検討しており、女性の利用しやすさに取り組んでいる。

⑧農政課

《農林・水産・商工などの自営業における男女共同参画の推進》

- ・農村生活アドバイザー講座は、要請があれば開講する。

⑨学校教育課

《男女共同参画教育・啓発の充実》

- ・子どもの健やかな成長を願う会では、男女関係なく参加者を募っている。参加者は年々増加しており、父親の参加もある。

⑩生涯学習課

《児童クラブ運営事業・社会教育推進事業》

- ・昼間保護者のいない留守家庭の児童が対象の児童クラブや、地域で子どもを育てることを目的とした放課後子ども教室を、現在教室がない校区に設置するという方向性でやっている。来年度以降は、児童クラブ又は放課後子ども教室をニーズの高い校区に増設することも視野に入れて実施していきたい。

⑪防災対策課

《防災への女性の参画の促進》

- ・東日本大震災以降、防災講習会への女性団体の参加がかなり増加している。

【実績 H22年度 142人 H23年度 324人 (H23年10月5日現在) ※女性団体のみ】
男女含めた団体の参加も多いが、その中でも女性の人数は多い。

- ・企業主体のワークショップの女性の参加者は全くいない状況。（各企業の担当者や役職の関係で難しいものがある。）
- ・自主防災会への女性参加促進をしていきたい。

⑫農業委員会

《農林・水産・商工などの自営業における男女共同参画の推進》

- ・家族経営協定促進として、農家の家族内の役割や責任の明確化を図っている。

⑬市民協働課

《地域づくり、市民との協働事業への参画の促進》

- ・地域コミュニティ活性化研究会では、地域活動への女性参加をテーマの一つとして、参加促進に取り組んでいる。

《NPO・ボランティア等の活動発足支援》

- ・まちづくり協働会議の委員に女性の登用を促進している。

第4回男女共同参画フェスティバル開催状況報告

日時:平成23年8月28日(日) 午前10時~午後4時10分

会場:田原文化会館 多目的ホール他

主催:田原市男女共同参画推進懇話会

参加団体:市内外の団体及び個人(計34)

来場者数:約700人

■交流ひろば(多目的ホール他)



↑ステージ発表



↑多目的ホール内の様子



ワークショップ



↑パネル展示



団体出展ブース



■出展者アンケート結果

・フェスティバルに参加してみて「とても良かった」、「まあまあ良かった」が約 70%

・次回のフェスティバルについて

「ぜひ開催してほしい」が約 70%、「開催してもよいが、内容を工夫すべき」が約 30%

・開催時期の希望について

「8月がよい」、「いつでもよい」がどちらも約 30% (次いで、「9月」が 16%、「10月」が 8%)

■映画祭(文化ホール)

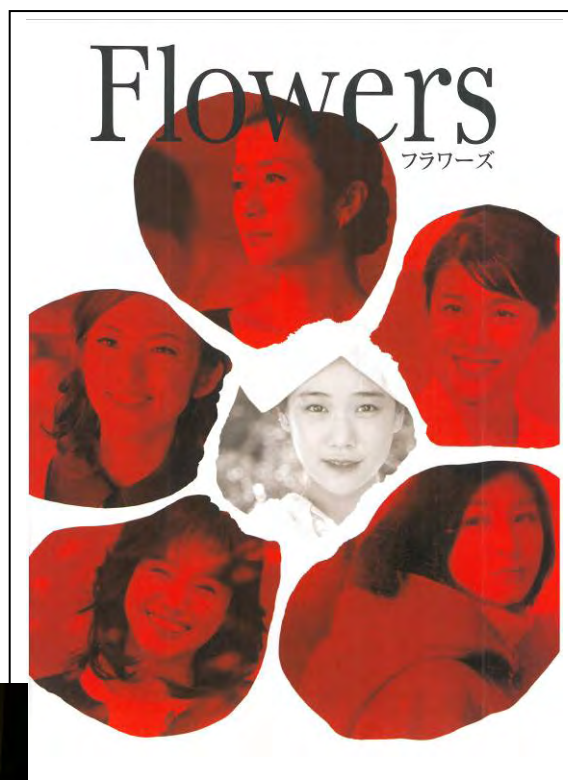
午後2時開演(午後1時30分開場)

上映作品:『Flowers』(日本/2010年/110分)

来場者:約230人(入場無料)



↑オープニング 主催者・来賓あいさつ
 (右) 懇話会 中村都祁子会長
 (左) 鈴木克幸市長(来賓)



↑上映映画『Flowers』(監督:小泉徳宏)
 昭和から平成までのさまざまな時代環境
 の中、自分らしく懸命に生きる6人の女性を
 描いた作品。

←オープニング
 成章高校吹奏楽部による演奏

■来場者アンケート結果

年代・性別	来場者全体の約 60%が50代以上、全体の約 70%が女性
フェスティバルをどこで知ったか	「知人友人から」約 46%、「回覧を見て」約 20%、 「チラシ・ポスターを見て」約 20%、「新聞折込チラシを見て」約 13%
フェスティバルの満足度	「満足」約 40%、「普通」約 50%、「不満」約 2%
《意見》	・ブースが狭くゆっくり見られなかった。 ・出展内容と男女共同参画の内容が合っているのか、目的がわからない。等
映画祭の満足度	「よかった」約 48%、「普通」約 20%、「よくなかった」約 3%
《意見》	・映画のストーリー・内容がよくわからなかった。 ・女性の力強く生きていく姿に感動した。とても良い映画だった。 ・この映画が、フェスティバルのテーマに相応しいものとは感じられない。 ・映像、音響が悪く、観賞しにくかった。等

第4回男女共同参画フェスティバル実施結果

(懇話会委員からの意見)

交流ひろば

1 開催時間・場所について

- ・時間、場所とも概ねこのままで良い。
- ・時間帯は良いが、場所をもう少し有効に使えると良い。
- ・午前10時から午後3時30分頃までがよい。
- ・多目的ホールは入りにくいのでは。アリーナではできないか。

2 ステージ発表について

- ・観客が少なく残念だった。
- ・ステージの位置が良かった。担当場所と国際交流協会事務所を行ったり来たりで、発表はほとんど見られなかった。
- ・紙芝居等、好評だった。太極拳は、「ご一緒に」と声をかけて来場者と一緒にやらせてほしかった、という声を聞いた。
- ・規模的、雰囲気的に臨機応変で進める企画でおもしろい。ステージに来る人に成長、効果があることが良い。
- ・一部しか見られなかったが、楽しかったし、良かったと思う。みなさんの努力に頭が下がります。
- ・発表の時間設定と詳細を事前に打ち合わせしておくべき。
- ・観客が途切れてしまうため、一部・二部とせず、まとめて通してもよいのでは。
- ・マイクの音響が悪く、聞き取りにくい。
- ・ステージの位置を変えてみたが、ブースでの声はやはり気になる。しかし、閉鎖された場で発表すればブースの方に振り向いてもらえないので、一長一短。腰を落ち着かせ、椅子に座れば各々良いことをやっているのだが…。

3 出展者ブースについて

- ・狭くても、出展者の工夫が見られて良かった。
- ・早く片付けてしまう団体があり残念だった。
- ・ワークショップのブースが狭く、体験が思うようにできなかった、という出展者の声があった。来場者に座っていただくスペースが確保できない団体があった。
- ・豊生ら・ばるかのブースがひとつ離れていたのが気になった。
- ・さまざまなブースがあり、興味深くおもしろかった。喫茶コーナーの引き上げが早かつ

たのが残念だった。

- ・ブースごと多少の問題はあったが、今後の改善によって良い方向へいくと思う。
- ・ふろしきの会、ホヌマヌ等、生活に役立ち、アイデアが目新しく見た目もきれいなブースに人気があったようだ。男女共同参画というスローガンに適しているかわからないが、楽しくて良かったと思う。
- ・来場者の目に留まるには場所、姿勢、態度等が大切だと学んだ（出展者として）。全体的にバランスがとれ、楽しい展示が多かったと思う。ワークショップのブースは狭かった。

4 その他

- ・年々来場者が増えているように感じる。
- ・田原市の皆さんがいろいろな活動をされていて、その発表の場となり、私自身知らなかったことも多く、思うところがたくさんあったので良かった。
- ・「男女共同参画フェスティバル」の名称を考え直してみてもどうか。ステージ発表、ブース出展等、名称とちぐはぐしているように思う。もっともっと浸透して、多くの人に興味をもってもらえたら、交流ひろばも盛り上がるのでは。
- ・来場者に「これって何？」と聞かれた。「生き生きと活動する女性の姿を見てください」と答えたが、男女共同参画はまだまだ理解されていないと感じた。テーマ、サブテーマ等に、わかりやすい具体的な説明をつけるとよいと思う。
- ・出展者が増えるともっと良くなると思う。
- ・委員になって一カ月しか経っていないので、他のメンバーを全く知らなかった。役割分担の責任者は、名札をつけるとわかりやすく助かったと思う。苗木等の配布物を誰に配るかよくわからず困った。何がクイズの賞品なのか、何をしたら人にどれを配るのかをはっきりさせておくべき。
- ・入口での行政の取組の掲示、配布物が良かった。
- ・今年は懇話会に男性委員が多く、当日も活躍してくれて良い雰囲気だったと思う。来場者も男性が増えたようだ。

自主企画田原市男女共同参画映画祭

1 開催時間について

- ・ちょうど良い。
- ・午後1時30分から午後3時30分頃までがよい。

2 上映作品・内容について

- ・映画の選択が良かった。前評判も良く、大好評だった。話題性のある作品で良かった。

- ・テーマに合った素晴らしい映画。外国人には時代を捉えるのが難しかったかもしれない。
- ・フィルム切り替え時に、ピンボケやブレ、音声が途切れることがあった。
- ・美しい風景、美しい女性、耳障りの良い言葉から、女性の人権を大切にしないことを気付かずに肯定している。フォローアップが必要ではないか。
- ・自分で見て納得した作品にすべきだった。
- ・自分の年代の者にはピタッとはまる時代背景だったので、深いところまで心の動きが感じ取れた。
- ・このフェスティバルでしか見られない映画を選定していきたい。
- ・主役級の女優が6人も出演するということで期待していたが、いまいちだった。命をつなぐことが女性のつとめ・幸せ、と言っているような感じ。
- ・音量が大きすぎて聞こえづらかった。
- ・問題提起のある作品だった。言葉、風景、女性の美しさだけで終わってほしくない。後日、内容についてディスカッションする機会があるとおもしろい。

4 その他

- ・前方の空席が気になったが、盛況だったと思う。
- ・無料での整理券配布は、難しさが残る。当日受付で、来場者に不快な思いをさせてしまった。
- ・成章吹奏楽の演奏も素晴らしく、若者が一緒に映画を見てくれる機会にもなって良い。市内には他2校（渥美農業高、福江高）もあるが…。
- ・入場料を500円くらいにして、来場者の意思をはっきりさせた方がよいのでは。
- ・オープニングで中村会長が、懇話会の体制についてきちんと話してくださったのが良かった。

その他意見

- ・初めて参加させていただきました。委員、職員の協力により、スムーズに進行できた。参加者も楽しんでいただけたと思う。
- ・男女共同参画はまだまだ難しい分野。だからこそ、多様な取り組みを続けなければならない。
- ・出展者から「同じような行事（しみんのひろば、ふくしの集い等）が多く、これらを統一して力を集中してはどうか」という意見を聞いた。
- ・いろいろな地域から足を運んでくださった出展者の皆さんが盛り上げてくれたと思う。
- ・このイベントにはどれくらいの経費がかかっているのか。

第4回男女共同参画フェスティバル出展者アンケート結果報告

日 時:平成23年8月28日(日) 午前10時～午後4時10分

場 所:田原文化会館 多目的ホール他

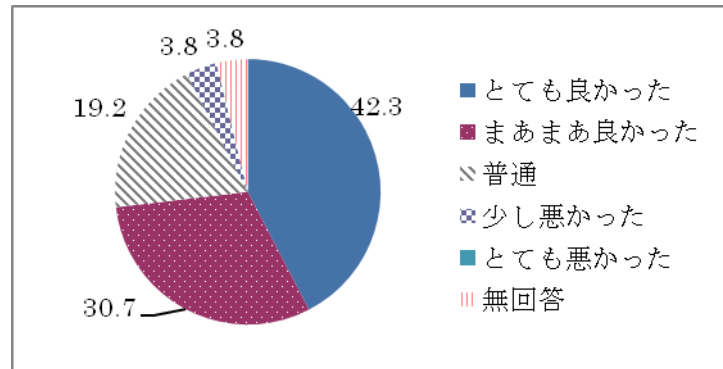
対 象:当日出席出展者 32団体

回 収:26団体(回収率81, 3%)

期 間:平成23年8月31日(水)～9月9日(金)

1 男女共同参画フェスティバルに参加してみてどうでしたか。

	%	人数
とても良かった	42.3	11
まあまあ良かった	30.7	8
普通	19.2	5
少し悪かった	3.8	1
とても悪かった	0.0	0
無回答	3.8	1

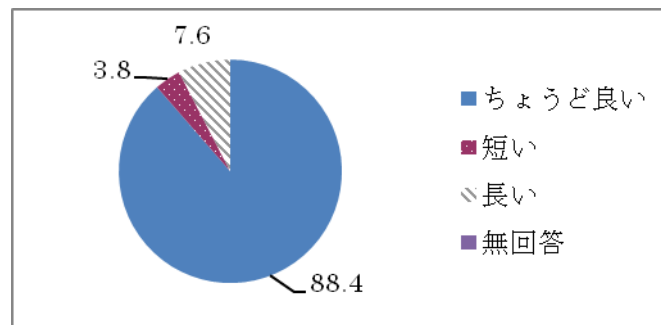


《意見》・今までにない人が来ていた。子連れも増えた。

- ・今回はステージが東側にあり、展示パネルで遮断されてステージを見ることができなかった。
- ・テーマが不明だった。
- ・来場者とコミュニケーションがとれて良かった。

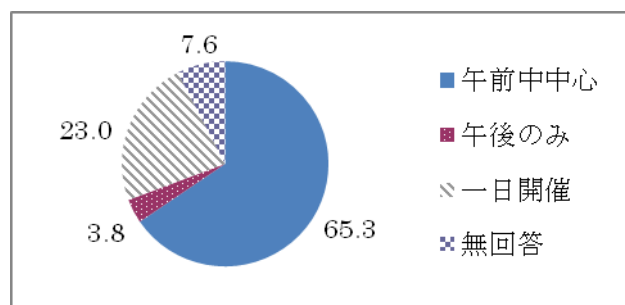
2 開催時間はどうでしたか。

	構成比(%)	人数(人)
ちょうど良い	88.4	23
短い	3.8	1
長い	7.6	2
無回答	0.0	0



3 開催時間帯はいかがですか。

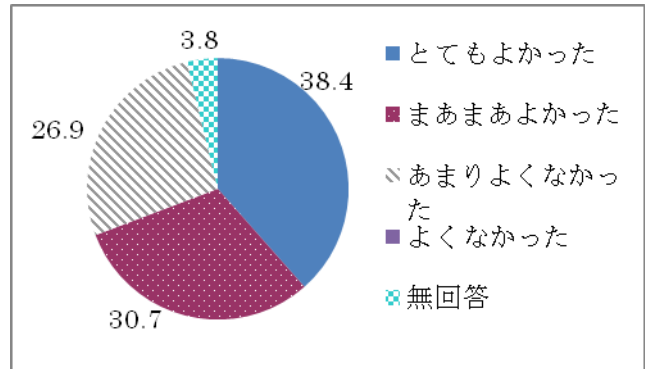
	構成比(%)	人数(人)
午前中中心	65.3	17
午後のみ	3.8	1
一日開催	23.0	6
無回答	7.6	2



- ・パネル展示等を午後2時までにしたことが良かった。
- ・発表あり、販売あり、映画ありで、気移りしてしまった。
- ・映画祭中も、多目的ホールで催しを開催している方がよい。

4 出展場所はいかがでしたか。

	構成比(%)	人数(人)
とてもよかった	38.4	10
まあまあよかった	30.7	8
あまりよくなかった	26.9	7
よくなかった	0.0	0
無回答	3.8	1



4-1 あまりよくなかった、よくなかったと回答した方の理由(複数回答可)

	人数(%)
スペースが狭い	4
隣のブースとの距離が近い	6
暑い	1
人目に付きにくい	2
個室の方がよい	0
その他	0

《意見》

- ・(ワークショップのブースの)目の前にボードが立ち並び、来場者は狭そうだった。見晴らしがよい方が楽しいと思う。
- ・(ステージ発表の)出演者が多く、舞台が狭かった。
- ・ブースの後ろのパネルが、来場者にとって見づらい。机が入るので距離ができる。
- ・子ども用ワークショップを計画していたが、場所がなかった。

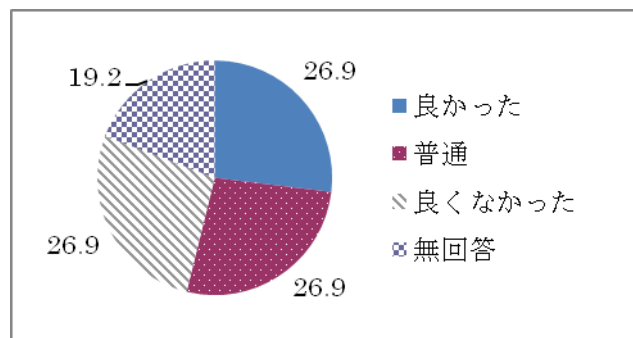
5 展示に使用した資材以外にこんなものがあればよかった、と思うものはありますか。

・ブルーシート

- 《意見》
- ・出展者が準備していけばよいと思う。
 - ・パネルの組み立て方が難しい。

6 自主企画田原市男女共同参画映画祭はどうでしたか。

	構成比(%)	人数(人)
良かった	26.9	7
普通	26.9	7
良くなかった	26.9	7
無回答	19.2	5

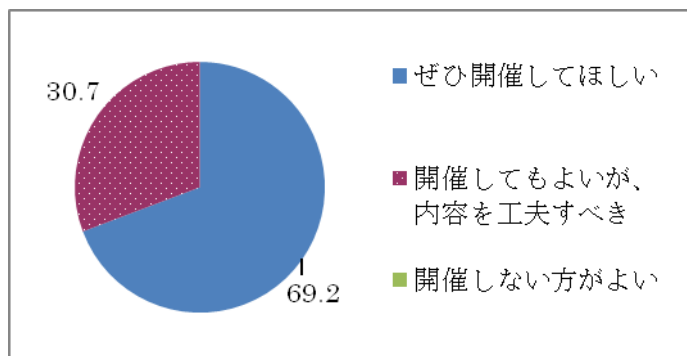


《良くないと答えた人の理由》

- ・ストーリーがわかりにくい。【4】
- ・整理券が配布終了していたわりに、空席が目立っていた。
- ・内容がフェスティバルに相応しいものではなかった。主催者がどんなメッセージを送りたくてこの映画を選んだのか不明。私たちには、フェスティバルのテーマとは逆のメッセージ(女は子どもを産むために存在している等)が伝わり、それが最も美しい姿として描かれていることに気持ち悪さを感じた。
- ・フィルムの状態、音声が悪い。【3】
- ・男女共同参画のコンセプトから見た場合、少し違っている様に思う。

7 次回の男女共同参画フェスティバルについてお伺いします。

	構成比(%)	人数(人)
ぜひ開催してほしい	69.2	18
開催してもよいが、内容を工夫すべき	30.7	8
開催しない方がよい	0.0	0



《内容を工夫すべきと答えた人の意見》

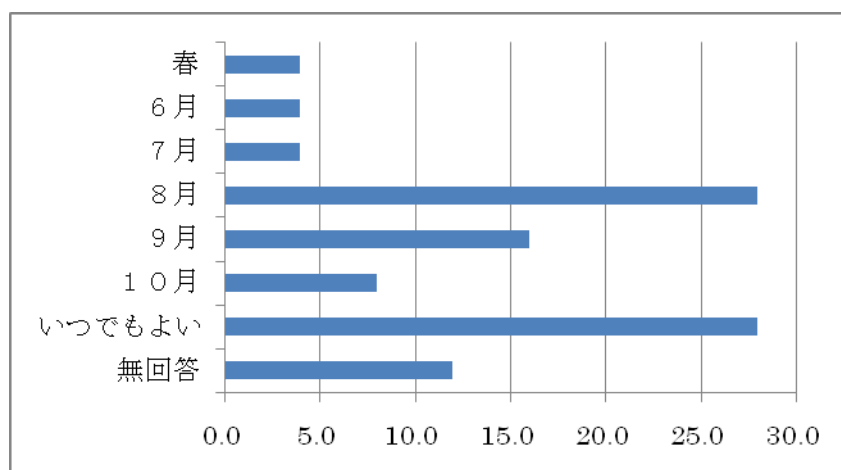
- ・市民にもっとPRすべき。
- ・活動の発表のための人あつめばかりが目立った。ボランティアやNPOばかりが目立って、楽しくなかったように思えた。
- ・多目的ホールでのバザーは、ステージ発表に影響するので、別室に移した方がよい。
- ・フェスティバルの主旨、目的をわかりやすく明確にすること。

7-1 開催時期はいつごろがよいですか。(複数回答あり)

	構成比(%)	人数(人)
春	4.0	1
6月	4.0	1
7月	4.0	1
8月	28.0	7
9月	16.0	5
10月	8.0	3
いつでもよい	28.0	7
無回答	12.0	4

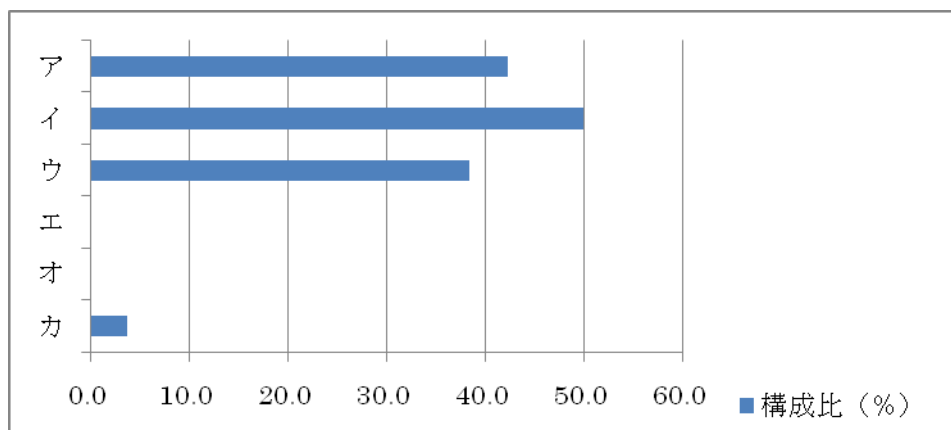
《意見》

- ・今回のように8月末がよい。
- ・夏休みの後半は、親子ともに宿題に取り組んで多忙なので、避けた方がよい。



8 他団体と交流できましたか。

	構成比(%)	人数(人)
ア)各ブースをまわっていろいろな話が聞けた	42.3	11
イ)話し合える時間はなかったが、展示物をみることができた	50.0	13
ウ)ブースを回る余裕がなかった	38.4	1
エ)自分は回れなかったが、他団体が来てくれた	0.0	0
オ)他団体と交流する気はなかった	0.0	0
カ)その他	3.8	1



★その他意見・要望

交流ひろばについて

- ・ステージ発表の観客は少なく、発表者の関係者がほとんどだった。
- ・夏休み中ということで、家族連れのお客さんも多数見かけた。しかし、いくらPRしても、来場者は出展者の関係者ばかりだと思うので、どうPRしたら広く一般の人に来ていただけるかが今後の課題だと思う。
- ・ステージの舞台位置は今年の方がよいと思う。
- ・ステージ発表の音が、ブースでの声に消されて聞こえづらい。
- ・ステージ出演希望者が多く、みなさん楽しんでいました、ありがとうございました。
- ・今回は他団体の活動を知ることができた。他団体との交流が楽しみ。
- ・多目的ホールのスペースが狭く、団体の活動内容や、バザーの売上金をどのように使うのかがよくわからない団体が多かった。
- ・団体同士が討論する時間帯があるとよい。
- ・ワークショップのスペースに人がたくさんいて、もっとスペースを広くとれたらと思った。
- ・中央に配置していたパネルは隅に置いてもよいと思う。
- ・室内が暑かった。
- ・閉会前に片付けをしている団体があった。

映画祭について

- ・映画祭は、整理券配布が完了しており見られないと思っていたら、たくさん空席があったので、システム変更の余地があると思う。
- ・映画祭は無料であったことは良かった。淡々と生きる美しい女性の表現が素晴らしかった。
- ・映画の上映時間に工夫はできないか。展示会場(多目的)に午後から来場する方もいたので、映画を見た後、展示も見る余裕があるとよい。

その他

- ・一人でも多くの市民に男女共同参画のことについてアピールできるような企画を取り入れてほしい。
- ・田原市には、まだまだいろいろな分野で活動している人たちがいる。もっとPRして出展者を募るべき。
- ・男女共同参画は、女性の立場の向上に重要であると思う。日本の社会問題を確認し、それぞれが課題として持ち帰り、何をしたか、何ができなかったか、この積み上げを大切にしていきたい。できることだけでなく、できない範囲を整理する必要がある。
- ・田原市の一年間の催し物を区別するだけでなく、その共通性を、部・課を越えて意見を出す場が必要である。他の催しではできない男女共同の特色が見えてくる気がする。
- ・多くの方がせっかく時間を労力とお金を出し合うので、その有効なまとめ方、目的等が広く市民に伝わるようにできないか。参加者の満足は十分にできていると思うが、参加していない市民にも。
- ・イベントの参加者はどうしても同じ人に限られている。知人友人は見学・参加しやすいが、参加したくない、参加できない人も多い。どのイベントにも共通している気がする。
- ・懇話会委員の皆様御苦勞様でした。細かい点までとても良く完成されていたと思う。参加者の満足感は大きかったと思う。
- ・スムーズに当日を迎えられたのも、スタッフのみなさんのおかげです。

田原市男女共同参画に関する市民アンケート調査結果【概要】

平成23年10月市民協働課整理

①目的	市の男女共同参画の現状及び市民意識を把握し、男女共同参画推進プランの効果的な推進を図る。
②調査方法	20歳以上の市民1,000人（性別・年代構成比を反映して抽出）に対する郵送によるアンケートを実施した。[発送] 9月中旬、[回収] 9月下旬
③回収結果	有効回収数411件、有効回収率41.1% ※前回調査（平成20年8月実施）

1 男女平等について

(1) 男女共同参画の取組

- ・「内容を含め詳しく知っていた」と「だいたい知っていた」をあわせた“知っていた”の割合が35.3%、「知らなかった」の割合が31.9%となっている。
- ・前回調査より“知っていた”の割合が2.2%減少した。要因としては、20歳代女性（34.5%→28%）、男性（25%→17.4%）、30歳代女性（29.7%→22.2%）、男性（30%→27.8%）の“知っていた”の割合が減少している。
- ・性別でみると、女性よりも男性の方が“知っていた”の割合が高くなっている。
- ・性別・年代別でみると、“知っていた”の割合は60歳以上男性の49.4%が最も高く、「知らなかった」の割合は20歳代女性の60%が最も高くなっている。

(2) 男女共同参画社会が必要な理由

- ・「男女とも、その能力と個性を十分に発揮し、多様な生き方を選択できるようにするため」（62.3%）、「少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に生かす必要があるため」（32.8%）、「男女の平等に基づく人権を確立するため」（26.3%）の順に高くなっている。
- ・性別で見ると、「少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に生かす必要があるため」の割合が（女性36.8%、男性27.4%）男性よりも女性の方が高く、「男女の平等に基づく人権を確立するため」の割合（男性32.3%、女性21.5%）と「政策・方針決定過程に、男女の意見を反映させ、民主主義の成熟を図るため」の割合（男性22.6%、女性9.4%）は女性より男性の方が高い。
- ・年代別では、どの年代も「男女とも、その能力と個性を十分に発揮し、多様な生き方を選択できるようにするため」と回答した人の割合が高くなっている。

(3) 男女共同参画社会の実現が十分達成されていない要因

- ・「家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること」（25.8%）、「男女共同参画の考えが市民に広く浸透していないこと」（23.4%）、「社会全般に男性優位の考え方や慣行が根深いこと」（19.5%）の順に高くなっている。
- ・性別でみると、女性では「わからない」と回答する割合が男性より高く、男性では「家庭や地域社会より仕事を重視する意識が男性や女性にあること」と回答する割合が、女性よりも高かった。
- ・年代別でみると、他の年代に比べ20歳代、30歳代、40歳代で「家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること」の割合が高くなっており、50歳代、60歳以上で「男女共同参画の考えが市民に広く浸透していないこと」の割合が高くなっている。

(4) 男女の地位の平等感

- ・8つの分野について、「男性の方が優遇されている」（「男性の方が優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」以下同じ）と回答した人の割合は、高い順に「社会全体として」（76.2%）、「社会通念・習慣・しきたり」（72.5%）、「職場」（61.3%）、「政治」（58.9%）、「家庭生活」（56.7%）、「地域活動」（47%）、「法律や制度」（32.6%）、「学校教育」（19.2%）となっている。

- ・性別で見ると、「社会通念・習慣・しきたり」の分野以外のいずれの分野でも、「男性の方が優遇されている」回答した割合が男性よりも女性の方が高くなっている。
- ・国や県の調査と比べると、「法律や制度上」「政治の場」以外の分野で「男性の方が優遇されている」の割合が高く、ほとんどの分野で「平等である」の割合は低くなっている。
- ・各分野で「平等である」と回答した割合は、「家庭生活の場」では前回調査より増加しているが、その他の分野は前回調査とほぼ変わらない。

(5) 仕事と家庭生活、地域活動における男女の生き方

- ・女性の生き方は「仕事と家庭生活・地域活動を両立」(34.8%)の回答が最も多く、女性の回答では更にその傾向が強い。また、前回調査よりも「家庭生活・地域活動よりも仕事を優先」が増加している。
- ・性別で見ると、「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」と回答した割合が男性よりも女性の方が高くなっている。
- ・男性の生き方は「家庭生活・地域活動よりも仕事を優先」(40.4%)の回答が最も多く、男性の回答では更にその傾向が強い。
- ・性別で見ると、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」と回答した割合が、女性よりも男性の方が高くなっている。

(6) 男女共同参画社会に関する用語の認知度

- ・「DV(配偶者からの暴力)」(65.9%)、「男女雇用機会均等法」(64.5%)、「男女共同参画社会基本法」(28.5%)の順に高くなっている。

2 結婚、家庭生活について

(1) 家庭での男女の役割の現状

- ・「女性が担当」と回答した割合は、「食事のしたく」(87.9%)、「洗濯」(86.7%)、「掃除」(81.9%)、「食事の後片付け、食器洗い」(81.6%)、「家計の管理」(60.3%)の順に高くなっている。
- ・性別で見ると、女性の方は「すべて女性が担当」の回答がすべてにおいて男性よりも高く、男性の方は「近所づきあい」と「子どもの教育」を除き、「主に女性が担当し男性が手伝う程度」の割合が女性よりも高い。男女間で家庭での役割の現状に意識差があることがうかがえる。
- ・「女性がすべて担当」と回答した割合は前回調査より減少。

(2) 家庭での男女の役割の理想

- ・「女性が担当」と回答した割合が高いものの、現状と比べ「男女同じ程度」と回答した割合が増加している。

(3) 男性が家事・育児・介護にたずさわるために必要なこと

- ・「仕事と家庭の両立ができるように社会全体の仕組みを改める」(38.7%)、「家庭で、家事・育児・介護の分担について十分に話し合う」(38.4%)、「家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える」(26.8%)の順に高くなっている。
- ・性別で見ると、男性よりも女性の方が「家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える」の割合が高くなっている。

(4) 結婚、家庭、離婚について

- ・結婚についての意識は、個人の自由に賛成する傾向がある。
- ・「夫は仕事、妻は家庭」の「賛成」の割合は、女性よりも男性の方が高い。
- ・「夫は仕事、妻は家庭」という価値観は、国の調査よりも“反対”する割合が低い。
- ・「必ずしも子どもをもつ必要はない」「結婚した相手に満足できないときは離婚すればよい」という意識は、国の調査よりも“賛成”する割合が低い。

(5) 少子化の大きな要因

- ・「子育てや教育にかかる費用の経済的負担がおおきいから」(55%)、「結婚しない男女が増えたから」(47%)、「仕事を持つ女性の仕事と子育ての両立が困難だから」(33.6%)の順に高くなっている。

3 子育て、子どもの教育について

(1) 子どもの育て方

- ・「男の子、女の子と区別せずに、同じように育てた方がよい」(36%)と考える割合が年々増加。
- ・「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てるという考え方は男性の方が多い。

(2) 男女平等の意識を育てるために学校教育で必要なこと

- ・「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を活かせるように配慮する」(48.2%)、「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」(39.7%)、「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」(38%)の順に高くなっている。
- ・性別で見ると、「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が男性よりも女性の方が高い。

4 働くことについて

(1) 退職理由(対象:女性のみ)

- ・「結婚」(42.1%)が最も高く、次いで「それ以外の理由」(33.6%)となっている。

(2) 現在無職または就業経験のない理由(対象:女性のみ)

- ・働く意思はあるが、「働きたい職種での雇用がない」「職種を問わず雇用がない」の割合が前回調査よりも増加している。
- ・働く意思がなく、女性は家において家事をすることが良いと思っているの割合も前回調査よりも増加している。

(3) 女性が職業を持つことに対する考え方

- ・「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(39.7%)が最も高く、次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(31.6%)となっている。
- ・性別で見ると、女性は「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が男性よりも高い。
- ・年代別で見ると、20歳代、30歳代、40歳代の人に「女性は職業をもたない方がよい」と回答した人はいない。
- ・「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合は、年々増加している。

(4) 現在働いている理由

- ・「生計を立てるため」(53.4%)と回答した人が半数以上の割合となっている。

(5) 職場における男女差別

- ・「不当に差別されていると思う」の割合は年々減少しているが、女性の方が男性より「不当に差別されていると思う」割合は高く、男女間で意識の差がある。
- ・年代別で見ると、「不当に差別されていると思う」の割合は、50歳代が最も高くなっている。

(6) 不当に差別されていると思う理由

- ・「昇進、昇格に差別がある」(37.5%)が最も高く、次いで「賃金に差別がある」(33.3%)となっている。

(7) 女性が働き続けるために必要な社会支援

- ・「夫や家族が理解し協力する」(52.6%)、「職業(仕事)と家庭の両立に職場が理解し協力する」(49.6%)、「育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる」(31.6%)の順に高くなっている。

(8) 仕事・家庭生活・地域活動の関係

- ・希望は、「仕事と家庭生活をともに優先したい」(33%)が最も高く、次いで「仕事と家庭生活と地域・個人の生活の三つとも大切にしたい」(21.4%)、「家庭を優先したい」(18%)となっている。
- ・現状は、「仕事を優先している」(37.1%)が最も高く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先している」(20.7%)、「家庭を優先している」(15.3%)となっている。

5 地域活動・社会活動について

(1) 地域活動への参加

- ・「自治会・町内会活動」では、「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が、男性よりも女性の方が高くなっている。また、20歳代で「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が高くなっている。
- ・「ボランティア活動などの社会奉仕活動」への参加意向は高い。

(2) 地域活動に参加していない理由

- ・「仕事が忙しい」(33.9%)、「自分の性格に合わない」(29.3%)、「必要な能力がない」(20.4%)の順に高くなっている。
- ・性別で見ると、女性では「自分の性格に合わない」の割合が、男性では「仕事が忙しい」の割合が最も高くなっている。

(3) 地域活動における男女の役割分担

- ・すべての地域活動において、前回調査よりも「男女同じ程度」の割合が増加している。

(4) 施策づくりへの女性の参画に関する考え

- ・「今よりももう少し女性の代表者が増えると良い」(54.5%)が最も高く、次いで「現状のままで良い」(14.6%)、「半分は女性の代表者が占めるべきだと思う」(13.4%)となっている。
- ・性別で見ると、女性よりも男性の方が「今よりももう少し女性の代表者が増えると良い」の割合が高い。
- ・「半分は女性の代表者が占めるべきだと思う」の割合は、年々増加している。

(5) 女性登用率が低い理由

- ・「女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから」(40.1%)が最も高く、次いで「女性自身が社会進出に消極的だから」(37.7%)、「女性の社会進出をよく思わない社会通念があるから」(31.6%)となっている。
- ・性別で見ると、男性よりも女性の方が「女性の社会進出をよく思わない社会通念があるから」の割合が高い。
- ・年代別では、20歳代、30歳代、40歳代で「女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから」の割合が、50歳代、60歳代以上で「女性自身が社会進出に消極的だから」の割合が最も高くなっている。
- ・「家庭があるため女性は社会進出できない」の割合は、年々減少。

6 介護について

(1) 現在の介護状況

- ・「配偶者が世話をしている」(8.8%)、「介護保険制度などのサービスを利用している」(5.6%)、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用している」(4.6%)が年々増加している。

(2) 将来、最も望ましいと考える介護形態

- ・「介護保険制度などのサービスを利用する」(37.7%)が最も高く、次いで「家族全員で世話をする」(30.4%)、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用する」(16.5%)となっている。
- ・性別で見ると、女性では「介護保険制度などのサービスを利用する」の割合が、男性では「家族全員で世話をする」の割合が最も高くなっている。
- ・年代別で見ると、20歳代、30歳代、40歳代で「家族全員で世話をする」の割合が、50歳代、60歳代以上で「介護保険制度などのサービスを利用する」の割合が最も高くなっている。

7 人権について

(1) 性的な差別・配偶者等からの暴力を受けた経験

- ・女性の7.6%がセクシャル・ハラスメントを経験したことがあると回答している。
- ・女性の約3割が「暴力行為等を受けている」と回答しているものの、「ドメスティック・バイオレンスを経験」の回答は5.4%と少なく、自分が受けた暴力等を「ドメスティック・バイオレンス」と認識していない可能性がある。

(2) 暴力についての相談経験

- ・64.7%の人が「相談していない」と回答。
- ・女性よりも男性の方が「相談しなかった」の割合が高くなっている。

(3) 未相談の理由

- ・「相談するほどのことでもないと思ったから」(56.4%)と最も高く、次いで「自分さえがまんすればなんとかこのままやっていけると思ったから」(32.7%)、「自分にもわるいところがあると思ったから」(21.8%)となっている。

8 男女共同参画の施策について

○男女共同参画社会推進のために必要なこと

- ・保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスなどを充実する(42.8%)、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」(22.4%)、「男女平等を目指した法律・制度の設定や見直しを行う」(22.1%)の順に高くなっている。

9 国・県調査との比較(特性) …… 5項目について国と市の調査結果を比較

<1>社会全体の男女平等感

○男女平等と回答した率

[国 23.2% : 県 14.4% : 田原市 8.5%]

※田原市は国と比べ「わからない」の回答率が高い

[国 1.6% : 田原市 8.3%]

<2>家庭生活の男女平等感

○男女平等と回答した率

[国 43.1% : 県 26.6% : 田原市 25.8%]

※田原市は国と比べ「男性優遇」の回答率が高い

[国 46.5% : 県 56.8% : 田原市 56.7%]

<3>夫は外で働き、妻は家庭を守るべき

○反対と回答した率

[国 23.8% : 県 14.8% : 田原市 16.8%]

※田原市は国と比べ「わからない」の回答率が高い

[国 3.6% : 田原市 12.9%]

<4>女性が職業を持つことに対する考え

○子どもができてみずっと職業を続ける方がよいと回答した率 [国 21.8% : 県 32.6% : 田原市 31.6%]

※田原市は「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら職業をもつ方がよい」の回答率は国や県と比べ低い

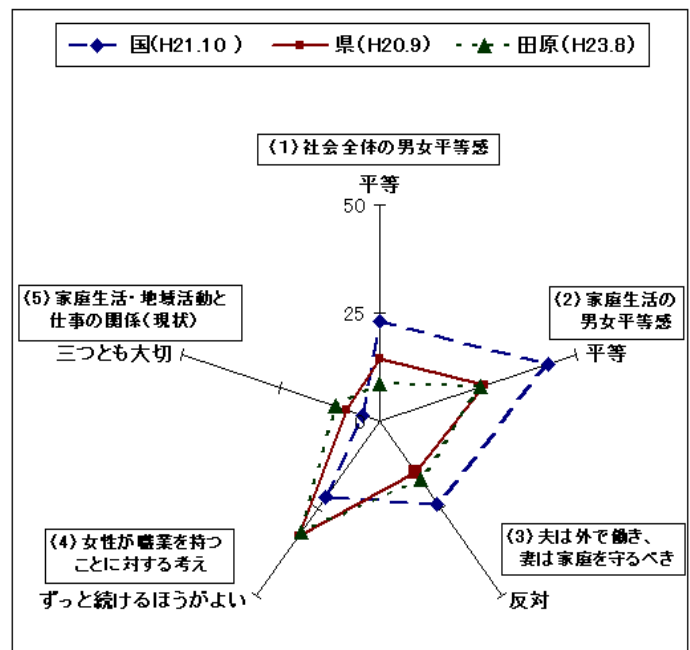
[国 48.8% : 県 43.1% : 田原市 39.7%]

<5>仕事・家庭生活・地域活動の関係(現状)

○仕事と家庭生活と地域・個人の生活の三つとも大切にしていると回答した率

[国 4.6% : 県 8.4% : 田原市 11.2%]

※田原市は「仕事を優先している」の回答率が国や県と比べ高い [国 25.8% : 県 30.2% : 田原市 37.1%]



生涯発達初期の選択行動 (8)

—大卒未婚者の結婚生活観と専業主婦志向—

武田 圭太 (愛知大学文学部)

Selection Behavior in the Early Stages of Development through Life (8):

Unmarried College Graduates' Views of Marriage and Becoming a Full-Time Housewife

Keita Takeda (Faculty of Letters, Aichi University)

問題

青年から成人への移行は、子が親の扶養や保護から独立して、自身の生活を始めることで実現する(Levinson *et al.*, 1978)。そのためには、親の子離れ・子の親離れのような精神面だけでなく、経済面でも自立できる就業機会を、子は獲得しなければならない(武田, 1993, 2010)。

こうした発達課題について本稿では、20~30歳代の未婚男女が、働きながら将来の結婚生活をどのように考えているかを検討する。

方法

調査対象 調査は、愛知県内の国公立大学を卒業し、同県内の民間企業に勤務する男女を対象に、構造化された質問紙法によって2回行った。調査1は22~38歳の男女204人、また、調査2は21~39歳の男女133人が対象だった。

調査方法 大学のクラブやサークルの卒業生に調査票を郵送し、記入後に返送してもらった。

調査1では、回収した182票のうち、無記入や誤記入等の7票を除く175票が有効だった(配布票に対する有効回収率85.78%)。調査2については、133票のうち127票が有効だった(配布票に対する有効回収率95.49%)。

調査時期 調査1は2004(平成16)年6~7月、また、調査2は2010(平成22)年1~5月に実施した。

分析手続 本稿で扱う変数は、①現職の満足感についての10項目、②離職の考え、③仕事と

恋愛との比較、④結婚願望、⑤結婚の催促、⑥結婚相手の職業、⑦結婚相手の収入、⑧子どもを持つ願望、⑨子どもの数、⑩理想の家庭を築く自信、⑪育児休暇の取得希望、⑫配偶者への育児休暇取得期待、⑬職場復帰後の不快経験、⑭DINKSの評価、⑮学童期以前の母親の就業状態、⑯学童期以前の専業主婦の望ましさ、⑰主夫の評価である。

現職の満足感、仕事内容、仕事のやり方・進め方、配属先、勤務地、昇進・昇格の可能性、基本給、残業・深夜手当などの特別手当、賞与(ボーナス)、職場の人間関係、評価制度の各10項目について、「あなたは、今の仕事に満足していますか。次のそれぞれについて、あてはまる番号に1つ〇をつけてください」に対し、「1=満足している/2=どちらかといえば満足している/3=どちらかといえば満足していない/4=満足していない/5=よくわからない」から選んでもらい、「4=満足している/3=どちらかといえば満足している/2=どちらかといえば満足していない/1=満足していない/0=よくわからない」と逆転して分析した。他の変数も同様に操作した。

離職の考えは、「あなたは、今、離職することを考えていますか」に対し、「1=離職を考えている/2=どちらかといえば離職を考えている/.../4=離職を考えていない/5=よくわからない」から選んでもらった。

仕事と恋愛との比較は、「あなたにとって、仕事と恋愛はどちらが大切ですか」に対し、「1=恋

愛が大切/2=どちらかといえば恋愛が大切/.../4=仕事大切/5=よくわからない」から選んでもらった。結婚願望は、「あなたは、結婚したいですか」に対し、「1=結婚したい/2=どちらかといえば結婚したい/.../4=結婚したくない/5=よくわからない」から選んでもらった。結婚の催促は、「就職後に、あなたは、親から『早く結婚して身をかためなさい』と言われるようになりましたか」に対し、「1=言われる/2=どちらかといえば言われる/.../4=言われぬ/5=よくわからない」から選んでもらった。

結婚相手の職業は、「あなたは、結婚相手の職業を気にしますか」、また、結婚相手の収入は、「あなたは、結婚相手の収入を気にしますか」に対し、それぞれ「1=気にする/2=どちらかといえば気にする/.../4=気にしない/5=よくわからない」から選んでもらった。

子どもを持つ願望は、「将来、結婚したら、子どもが欲しいですか」に対し、「1=子どもが欲しい/2=どちらかといえば子どもが欲しい/.../4=子どもが欲しくない/5=よくわからない」から選んでもらった。子どもの数は、「家計の収入を

考えると、子どもは何人くらい欲しいですか」に対し、その数を記入してもらった。理想の家庭を築く自信は、「あなたは、理想どおりの家庭を持つ自信がありますか」に対し、「1=自信がある/2=どちらかといえば自信がある/.../4=自信がない/5=よくわからない」から選んでもらった。

育児休暇の取得希望は、「あなたは、育児休暇を取りたいですか」に対し、「1=育児休暇を取りたい/2=どちらかといえば育児休暇を取りたい/.../4=育児休暇を取りたくない/5=よくわからない」から選んでもらった。配偶者への育児休暇取得期待は、「あなたは、育児休暇を取ることを配偶者に望みますか」に対し、「1=望む/2=どちらかといえば望む/.../4=望まない/5=よくわからない」から選んでもらった。職場復帰後の不快経験は、「あなたやあなたの同僚で、産休・育児休暇の取得後に職場復帰したとき、『みんなに迷惑をかけた』と周りから白い目で見られた経験がありますか」に対し、「1=経験がある/2=経験がない/3=よくわからない」から選んでもらった。

DINKSの評価は、「あなたは、DINKS(共働き

表1 大卒未婚者の仕事満足感と結婚生活観の男女差

	男性(n=126)		女性(n=103)	
	M	SD	M	SD
年齢	27.06	3.24	27.29	3.56
勤続月数	40.08	36.75	46.50	38.94
勤務地の満足感	3.10	1.00	3.41	.81*
基本給の満足感	2.06	1.14	2.45	1.07*
離職の考え	1.67	1.18	2.06	1.21*
仕事と恋愛との比較	1.70	1.38	2.08	1.45*
結婚の催促	1.90	1.22	2.26	1.22*
結婚相手の職業	1.79	1.06	3.07	.86***
結婚相手の収入	1.79	1.01	3.13	.74***
育児休暇の取得希望	1.82	1.61	2.99	1.43***
配偶者への育児休暇取得期待	3.07	1.31	1.92	1.26***
職場復帰後の不快経験	.55	.61	.81	.76**

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

で子どもなし)の夫婦についてどう思いますか」に対し、「1=賛成/2=どちらかといえば賛成/…/4=反対/5=よくわからない」から選んでもらった。

学童期以前の母親の就業状態は、「あなたの母親は、あなたが小学校に入学する前に働いていましたか」に対し、「1=働いていた/2=働いていなかった/3=よくわからない」から選んでもらった。学童期以前の専業主婦の望ましさは、「あなたは、子どもが小学校に入学するまでは、専業主婦の方が望ましいと思いますか」に対し、「1=望ましいと思う/2=どちらかといえば望ましいと思う/…/4=望ましいと思わない/5=よくわからない」から選んでもらった。

主夫の評価は、「あなたは、男性の主夫についてどう思いますか」に対し、「1=賛成/2=どちらかといえば賛成/…/4=反対/5=よくわからない」から選んでもらった。

この他に個人属性として、性別、年齢、婚姻状態、大学卒業年、出身大学の設置者、出身学部、勤め先の業種・従業員数・勤続年数・所属部門・職位の回答を得た。

分析対象は、未婚男性 126 人(55%)、未婚女性 103 人(45%)である。年齢は、男性 22~39 歳、平均年齢 27.06 歳($SD=3.24$)、女性 21~37 歳、平均年齢 27.29 歳($SD=3.56$)、大学卒業年は、男性の最頻値 1999(平成 11)年、2000(平成 12)年、2001(平成 13)年、女性の最頻値 2000(平成 12)年、男性の出身学部は、文科系 96 人(76.2%)、理科系 30 人(23.8%)、女性は文科系 101 人(98.1%)、理科系 2 人(1.9%)である。また、勤め先の業種の最頻値は、男性サービス業 53 人(42.1%)、女性サービス業 45 人(43.7%)、従業員数の最頻値は、男性 10~100 人未満 40 人(31.7%)、女性 10~100 人未満 33 人(32.0%)、平均勤続月数は男性 40.08 ヶ月($SD=36.75$)、女性 46.50 ヶ月($SD=38.94$)、男性の所属部門の最頻値は営業・販売 56 人(44.4%)、女性は営業・販売 29 人(28.2%)、男性の職位の最頻値は一般 105 人(83.3%)、女性は一般 94 人(91.3%)である。

本稿では、仕事の満足感と結婚生活に関する意見を勤続年数別に男女で比較し、加齢に伴い生活の関心事が仕事からしだいに結婚へと発展していくなかで、男女の結婚生活観にどのような差異がみられるかについて検討する。

結果と考察

仕事満足感と結婚生活観 仕事については勤務地と基本給に有意差がみられ、どちらも女性の方がより満足している(表 1)。男女の賃金格差があるとしても、男性は勤務地を広域に移動する機会が多いので、そうした負荷が影響していると思われる。しかし、男性に比べ女性は、離職を考えている。女性が離職を考えるのは、仕事の満足感とは別の理由が関係しているかもしれない。

1 つの要因として結婚が考えられる。「早く結婚して身をかためなさい」と親から言われるのは男性より女性で、彼女たちは仕事より恋愛を大切に考え、結婚相手の職業や収入への関心が強い。

また、出産後は夫ではなく自身が育児休暇を取得したいと思っている。産休・育休後の職場復帰が不快な経験になりそうだと予想している。

勤続年数別の男女差 次に、仕事の満足感と結婚生活観の変化をみるため、勤続年数によって 4 群に分け男女差を比較した。その結果、勤続年数 5 年以上の男性は、基本給や賞与の満足感が女性に比べ低いことが示された(表 2)。

女性は、勤めて 3 年を過ぎる頃になると、男性に比べ結婚願望が高まるようである。女性は、一貫して結婚相手の職業や収入を気にしている。

結婚後は、男性は妻に育児を期待し、女性も自らが育児をするつもりで、夫に期待はしていないようである。そうした傾向は、入社 1 年目の女性が、「学童期前は専業主婦が望ましい」と男性以上に考えていることにも表れているといえよう。

専業主婦志向の理由 本稿で取り上げた変数について、妻に専業主婦を期待する男性間の差異、自身が専業主婦を望む女性間の差異を個別に検討した結果、男女共に専業主婦志向の人は、子が小学校に入学するまで

は専業主婦が望ましいと考えていることが明らかになった(専業主婦期待の男性、 $n=42$ 、 $M=3.29$ 、 $SD=1.09$ 、兼業主婦期待の男性、 $n=84$ 、 $M=2.33$ 、 $SD=1.44$ 、 $df=104.724$ 、 $p<.000$ ；専業主婦願望の女性、 $n=28$ 、 $M=3.36$ 、 $SD=.87$ 、兼業主婦願望の女性、 $n=74$ 、 $M=2.68$ 、 $SD=1.30$ 、 $df=72.962$ 、 $p<.000$)。

また、女性の場合、専業主婦願望と結婚後の退職希望とは正の相関関係にある($r=.299$ 、 $p<.001$)。おそらく一部の女性は、結婚後は子育てに専念するため退職したいと考えているので、

結婚相手の職業や収入が気になるのだろう。

引用文献

- Levinson, D. J., et al. 1978 *The seasons of a man's life*. Knopf. (南博 訳 1980 人生の四季—中年をいかに生きるか— 講談社)
 武田圭太 1993 生涯キャリア発達—職業生涯の転機と移行の連鎖— 日本労働研究機構
 武田圭太 2010 採用と定着—日本企業の選抜・採用の実態と新入社員の職場適応— 白桃書房

表2 大卒未婚者の勤続年数別にみた仕事満足感と結婚生活観の男女差

	1年未満		1~3年未満		3~5年未満		5年以上	
	男性 ($n=19$)	女性 ($n=12$)	男性 ($n=49$)	女性 ($n=36$)	男性 ($n=26$)	女性 ($n=25$)	男性 ($n=32$)	女性 ($n=30$)
	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)
年齢	25.63 (2.67)	25.33 (3.82)	25.57 (2.12)	25.44 (2.22)	26.58 (1.30)	26.76 (2.70)	30.59 (3.48)	30.73 (2.95)
配属先の満足感					2.88 (.86)	3.36* (.64)	2.56 (1.08)	3.17* (.87)
勤務地の満足感							2.75 (1.05)	3.37* (.96)
基本給の満足感							1.88 (1.04)	2.70** (.99)
賞与(ボーナス)の満足感							1.81 (1.12)	2.40* (1.13)
離職の考え	1.53 (1.02)	2.50* (1.38)						
結婚願望					2.65 (1.50)	3.48* (1.12)		
結婚相手の職業	1.63 (1.07)	3.08** (1.00)	1.67 (1.18)	3.03*** (.88)	1.73 (.87)	3.32*** (.75)	2.09 (1.00)	2.90** (.85)
結婚相手の収入	1.53 (.91)	3.25*** (.75)	1.86 (1.04)	3.22*** (.64)	1.77 (.95)	3.28*** (.79)	1.88 (1.07)	2.83*** (.75)
育児休暇の取得希望			1.71 (1.61)	3.31*** (1.22)	1.96 (1.71)	3.28** (1.24)		
配偶者への育児休暇取得期待	3.21 (1.23)	2.08* (1.31)	3.41 (1.06)	2.08*** (1.11)			2.75 (1.37)	1.47*** (1.25)
職場復帰後の不快経験					.54 (.58)	.88* (.53)		
学童期以前の母親の就業状態	1.74 (.81)	1.17* (.58)						
学童期以前の専業主婦の望ましさ	2.16 (1.68)	3.42* (.90)						

* $p<.05$ ** $p<.01$ *** $p<.001$

[参考資料] 平成23年度版あいちの男女共同参画
(平成22年度年次報告書)より抜粋

9 審議会等委員への女性の登用状況

法令・条例により設置されている審議会等委員への女性の登用率は、平成23年4月1日現在で24.88%である。

また、女性が登用されているのは、1,334機関のうち1,125機関であり、全体の84.33%を占めている。(別表2参照)

10 市町村の行政委員会委員への女性の登用状況

条例により設置されている行政委員会委員への女性の登用率は、平成23年4月1日現在で11.64%である。また、女性が登用されている機関数は307機関のうち161機関であり、全体の52.44%となっている。(別表2参照)

<行政委員会委員への女性の登用状況>

委員会総数	委員総数	女性委員数	女性登用率
307機関	2,157人	251人	11.64%

11 女性市町村議会議員の状況

市町村議会における女性議員数は、平成23年4月1日現在で1,266人のうち167人であり、全体の13.19%となっている。また女性議員がいない市町村は1町2村である。(別表2参照)

12 女性の市町村長、副市町村長、教育長、議長の就任状況

市町村名	役職	氏名	任期
高浜市	市議会議長	小野田由紀子	平成22年5月14日～平成23年4月29日
岩倉市	市議会議長	馬路 康子	平成22年5月12日～平成23年4月30日
日進市	教育長	山田 誠子	平成21年10月1日～在任中

○市町村における男女共同参画行政の推進状況 (別表1)

市町村名	1		2	3	4	5	6		7
	男女共同参画行政主管課室の設置	用いている 共同参画室に「男女共同参画」を 用いている	主管課室に「男女共同参画」を 用いている	男女共同参画に関する 職員の配置	男女共同参画に関する 職員の配置	男女共同参画に関する 職員の配置	個別計画策定	総合計画での位置づけ	女性関係団体連絡協議会等の設置
名古屋市	首	○	○	○	○	○	○	○	
豊橋市	首		○	○	○	○	○	○	○
岡崎市	首		○	○	○	○	○	○	○
一宮市	首			○	○	○	○	○	
瀬戸市	首			○	○	○	○	○	
半田市	首				○	○	○	○	○
春日井市	首	○	○	○	○	○	○	○	○
豊川市	首		○	○	○	○	○	○	
津島市	首		○	○	○	○	○	○	
碧南市	首						○	○	○
刈谷市	首		○	○	○	○	○	○	
豊田市	首		○	○	○	○	○	○	○
安城市	首			○	△	○	○	○	○
西尾市	首			○			○	○	○
蒲郡市	首			○			○	○	○
犬山市	首			△	△	○	○	○	
常滑市	首			○	△	○	○	○	
江南市	教			○	○	○	○	○	○
小牧市	教			○	○	○	○	○	○
稲沢市	教			○	○	○	○	○	○
新城市	首			○			○	○	○
東海市	首			○	○	○	○	○	
大府市	首	○		○	△	○	○	○	○
知多市	首		○	○			○	○	
知立市	首			○	○	○	○	○	
尾張旭市	首			○	○	○	△	○	
高浜市	首							○	
岩倉市	教			○			○	○	
豊明市	首		○	○	○	○	△	○	△
日進市	首		○	○	○	○	○	○	
田原市	首			○	○	○	○	○	
愛西市	首			○			○	○	
清須市	教						○		
北名古屋市	首			△	○	○	○	○	
弥富市	首			○	○	○	○	○	
みよし市	首		○	○		△	○	○	
あま市	首		○			○	△	△	
東郷町	首			○	○	○	○	○	

市町村名	1		2	3	4	5	6		7
	男女共同参画行政主管課室の設置	用いている 共同参画室に「男女共同参画」を 用いている	主管課室に「男女共同参画」を 用いている	男女共同参画に関する 職員の配置	男女共同参画に関する 職員の配置	男女共同参画に関する 職員の配置	個別計画策定	総合計画での位置づけ	女性関係団体連絡協議会等の設置
長久手町	首			△	△	○	○	○	
豊山町	首						○	○	
大口町	首						○		
扶桑町	首			○	○	○	○	○	
大治町	教							○	
蟹江町	首						△	○	
飛島村	首			△	○	○	○	○	
阿久比町	教						△	○	○
東浦町	教				○	○	○	○	○
南知多町	首				△	△	△	○	○
美浜町	首				△			○	○
武豊町	首				△	○	○	○	○
幸田町	教			○			○	○	
設楽町	首			△		△	△	○	○
東栄町	教								
豊根村	首								

※調査時点 平成23年4月1日

※首長部局は首、教育委員会は教で表示し、○は有、△は検討中

◎項目別合計

	項目	名古屋市	名古屋市を除く市計	町村の合計	名古屋市を除く市町村計	合計
		男女共同参画行政主管課室の設置				
1	首長部局	1	31	12	43	44
	教育委員会	0	5	5	10	10
	主管課室に「男女共同参画・女性」を用いている	1	2	0	2	3
	男女共同参画に関する事務を担当する専任職員の配置	1	12	0	12	13
2	男女共同参画行政推進会議等の設置	1	29	3	32	33
3	男女共同参画に関する職員研修の実施	1	21	4	25	26
4	男女共同参画懇話会等の設置	1	30	7	37	38
5	男女共同参画に関する条例の制定	1	12	2	14	15
6	個別計画策定	1	34	10	44	45
	総合計画での位置づけ	1	31	14	45	46
7	女性関係団体連絡協議会等の設置	0	14	6	20	20

○市町村における男女共同参画行政の推進状況 (別表2)

市町村名	9 市町村の審議会等(法令・条例設置)委員への女性の登用状況							10 市町村の行政委員会委員への女性の登用状況					11 女性市町村議会議員の状況		
	目標年(平成)	目標値(%)	総機関数	女性委員を含む機関数	委員数(人)A	うち女性委員数(人)B	登用率B/A(%)	委員会数	女性委員を含む委員会数	委員数(人)A	うち女性委員数(人)B	登用率B/A(%)	議会議員総数(人)	うち女性議員数(人)	女性比率(%)
名古屋市	27	40~60	58	57	2,310	826	35.76	6	3	66	9	13.64	75	13	17.33
豊橋市	24	35	32	28	476	125	26.26	6	4	62	9	14.52	40	4	10.00
岡崎市	27	35	29	25	599	130	21.70	6	3	59	4	6.78	40	4	10.00
一宮市	30	35	36	32	1,047	415	39.64	6	5	57	7	12.28	43	4	9.30
瀬戸市	23	30	25	20	324	60	18.52	6	4	44	6	13.64	28	4	14.29
半田市	26	30	24	19	332	64	19.28	6	3	34	7	20.59	22	1	4.55
春日井市	23	30	28	26	380	84	22.11	6	6	44	8	18.18	32	4	12.50
豊川市	27	30	24	23	491	107	21.79	6	5	53	7	13.21	40	10	25.00
津島市	27	35	21	17	302	62	20.53	6	5	49	7	14.29	22	3	13.64
碧南市	-	-	32	30	697	170	24.39	6	3	39	4	10.26	21	3	14.29
刈谷市	32	35	20	17	364	59	16.21	6	4	45	7	15.56	30	3	10.00
豊田市	26	30	21	12	410	90	21.95	6	3	69	6	8.70	46	4	8.70
安城市	24	31	41	38	586	162	27.65	6	5	50	9	18.00	30	2	6.67
西尾市	25	40	28	20	537	108	20.11	6	4	56	5	8.93	32	3	9.38
蒲郡市	-	-	19	19	605	99	16.36	6	2	38	4	10.53	20	1	5.00
犬山市	28	30	23	19	356	69	19.38	6	5	36	7	19.44	22	1	4.55
常滑市	32	30	15	13	267	55	20.60	6	3	45	3	6.67	21	4	19.05
江南市	23	30	29	25	426	103	24.18	6	3	35	4	11.43	22	4	18.18
小牧市	25	35	35	29	483	131	27.12	6	3	38	5	13.16	25	6	24.00
稲沢市	32	35	32	26	548	119	21.72	6	2	55	2	3.64	34	2	5.88
新城市	23	30	28	21	713	176	24.68	6	3	44	6	13.64	17	1	5.88
東海市	27	39	22	20	252	71	28.17	6	3	43	5	11.63	24	5	20.83
大府市	27	40	22	21	226	72	31.86	6	4	37	7	18.92	21	3	14.29
知多市	33	30	20	17	286	60	20.98	6	1	42	1	2.38	22	2	9.09
知立市	30	30	25	19	284	73	25.70	6	4	36	7	19.44	23	4	17.39
尾張旭市	25	35	24	24	296	104	35.14	6	3	29	3	10.34	22	5	22.73
高浜市	-	-	21	20	238	58	24.37	6	4	32	7	21.88	16	2	12.50
岩倉市	32	35	22	22	370	110	29.73	6	3	32	4	12.50	16	4	25.00
豊明市	27	35	35	32	753	181	24.04	6	4	35	6	17.14	21	5	23.81
日進市	27	35	38	33	465	119	25.59	6	3	38	6	15.79	22	3	13.64
田原市	28	30	21	19	267	46	17.23	6	4	44	8	18.18	20	1	5.00
愛西市	23	35	15	12	241	49	20.33	6	4	55	5	9.09	24	4	16.67
清須市	-	-	22	19	366	104	28.42	6	4	45	5	11.11	24	5	20.83
北名古屋市	29	35	21	19	284	85	29.93	6	3	38	5	13.16	24	5	20.83
弥富市	26	30	16	15	263	64	24.33	6	3	34	4	11.76	18	3	16.67
みよし市	25	35	33	30	425	142	33.41	6	3	36	6	16.67	19	3	15.79

市町村名	9 市町村の審議会等(法令・条例設置)委員への女性の登用状況						10 市町村の行政委員会委員への女性の登用状況					11 女性市町村議会議員の状況			
	目標年(平成)	目標値(%)	総機関数	女性委員を含む機関数	委員数(人)A	うち女性委員数(人)B	登用率B/A(%)	委員会数	女性委員を含む委員会数	委員数(人)A	うち女性委員数(人)B	登用率B/A(%)	議会議員総数(人)	うち女性議員数(人)	女性比率(%)
あま市	-	-	20	14	393	129	32.82	6	1	44	1	2.27	40	5	12.50
名古屋市を除く市計	-	-	919	795	15,352	3,855	25.11	216	126	1,572	197	12.53	943	127	13.47
東郷町	30	30	18	11	206	41	19.90	5	3	31	3	9.68	20	5	25.00
長久手町	24	30	28	25	357	82	22.97	5	2	31	3	9.68	20	4	20.00
豊山町	31	40	23	22	243	74	30.45	5	1	30	1	3.33	14	2	14.29
大口町	-	-	22	19	332	56	16.87	5	2	30	3	10.00	15	1	6.67
扶桑町	31	35	25	21	379	80	21.11	5	1	33	2	6.06	15	1	6.67
大治町	-	-	14	8	133	19	14.29	5	1	26	2	7.69	13	2	15.38
蟹江町	-	-	19	14	223	35	15.70	5	3	29	3	10.34	14	1	7.14
飛島村	32	30	16	10	151	28	18.54	5	2	33	2	6.06	10	0	0.00
阿久比町	27	25	25	22	393	78	19.85	5	2	32	2	6.25	16	0	0.00
東浦町	32	40	18	14	218	57	26.15	5	2	34	3	8.82	17	1	5.88
南知多町	-	-	19	19	437	80	18.31	5	0	27	0	0.00	12	2	16.67
美浜町	-	-	22	17	279	73	26.16	5	1	37	1	2.70	16	1	6.25
武豊町	32	33	22	20	513	103	20.08	5	1	33	1	3.03	18	2	11.11
幸田町	30	30	24	18	282	50	17.73	5	2	35	4	11.43	16	2	12.50
設楽町	23	22	10	3	136	10	7.35	5	3	31	5	16.13	14	1	7.14
東栄町	-	-	23	14	285	24	8.42	5	4	23	7	30.43	10	2	20.00
豊根村	-	-	12	6	141	19	13.48	5	2	24	3	12.50	8	0	0.00
町村の計	-	-	340	263	4,708	909	19.31	85	32	519	45	8.67	248	27	10.89
名古屋市を除く市町村計	-	-	1,259	1,058	20,060	4,764	23.75	301	158	2,091	242	11.57	1,191	154	12.93
合計	-	-	1,317	1,115	22,370	5,590	24.99	307	161	2,157	251	11.64	1,266	167	13.19

※表9で女性委員のいる機関の割合 84.66%

※表10で女性委員のいる機関の割合 52.44%

※調査時点 平成23年4月1日

【広域設置を含む】 9 女性委員のいる機関の割合 84.33%

名古屋市を除く市町村計	1,276	1,068	20,556	4,862	23.65
合計	1,334	1,125	22,866	5,688	24.88